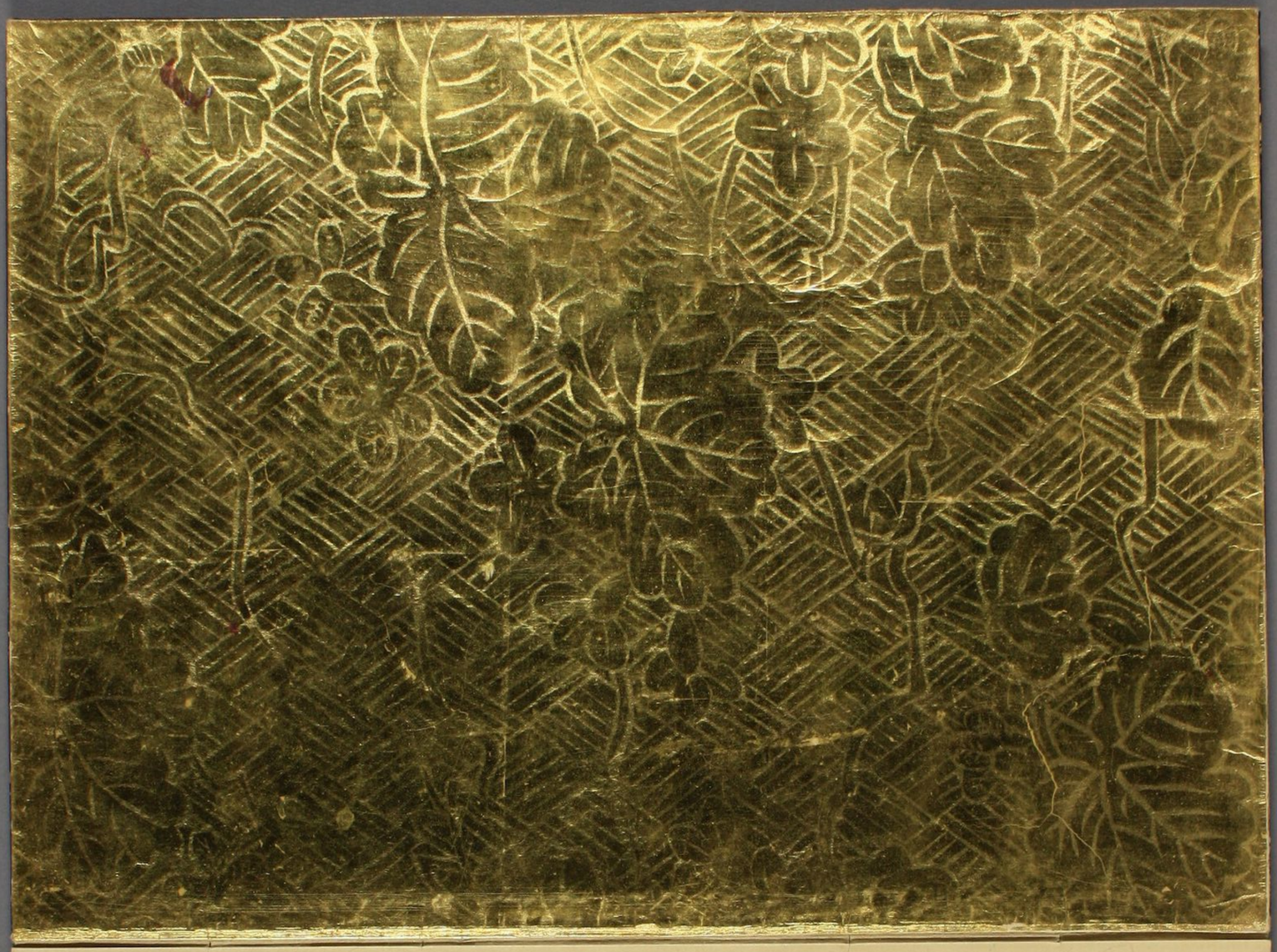
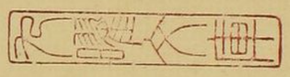
柳生





湯門乃かし君かくのごとなるを法てのたをたたら
てとしかへ宮ぬたとくき寿れ方たほ一をけく
さ宮を乃てそまつるに点るてを寿てるまなん人乃ら
はしれく法ををかつへ寿てをを中ん八うてろ
とてまるこれるこれ世るはるまかてうた
しみとるめまほ寿分の八いを者れ宮ほと
る宮を中んたくもとるねことを人るまひとき
さみ八まきと乃と本ぬ屋者わてれとたれて
なるめなるぬ思ひ乃ほのわしうとそれかるひるく
世りとひとるを乃ふりとに分を思たりてこ
るくなへて乃世中すきまう思ひるりて後世の

たゝおもひよはいつくにすみしともやすからぬはかなきみ
を思ふに深山にもかくれ道人とたのみ出家はかりし
なるへくおほえしかはとさまかくさまよたちまよひて
おほえぬおもひの一つゝなりしかはよろひかくるは我
よわはたゝしつ道のはつ我こゝろにつゝきてそこに我
ゆるにしてそれとおもひたらむへ我人をもれ仏神を
かこてむかしこ大なる我は二道みなさる人我よりてそれはいかゝ
たまたまもかをせの松かゝぬ世はつねよりあるへき我まて
ゆかぬをとかく人にもはなくてらしのをもはなへ我わすよ
てなき事はあり道をもそのおもはむ人のあらむしよりて
はひとへおもひよりもえぬるものかりける世の物語にてなむ

我人はこのつゝあけましきものなりとたち我も人をも
あはれにおもひみてく道をつくるやうをもあらむよりは
なかしとも心をすゑ候はむあらんもいかほともおほゆ
おもはるいてんをしる法川のことを今なりともあらは
みな我えぬへきわさなれはことさらにあやまりを
なきものとして一つ法をもふかくにおもはむに
我もひ法はしゝにあまたのいてまれのるもとつ道へ
よおもひ法くるもうちかへしいとあらまほしき
とかく我もわれしつゝなりのとやいのるし
思みて道くまてしもさきなかれ人のかなきを
なりと見つゝいかゝひまあるとも人にみせさるを

なまえるほどにかこに申つたてまつる道法いまハかきわ
よ侍ものく給ひすとおハをのつく者てまつやう
をまてんをいく侍ものとたよ申みくとあるをた
まハるをこと申ものとをいとうをつる給るれをと向
ゆるふみうわれ世ハ物ともみの給ひく
いまハとそをえ人ひ給ふわをひたれ申たんを盗
ひりなをものこてんあ道とくたり面せよこの
とをて人ひりれるやうたハんたのひわふ
をしゝ給むと者こえ法給法をこりすあよ
ゆく道言れるゆをもいあこを法へをるあつ
いまひとくこいふへ者てとなんとの法へ道ハこれ人を
ほくハなるほたなわ給ひてまつりかをひ法くみた
てまつわなれる人をれハ松者なきんれこまをそう
しくれなえ法つ道今ハと申ハとれしくてな
くくしけ人をまをたこ道とくらあををて給
道と者こゆ道ハわ道をふれんれく物
んほろ世道ハ物ほくれあて道ほわハ思をる
といとんうをこと物ひこるふくハみをうを
つまを者とてけくたハい法けんつくれ物ふ
かくなりくつをやなる法ハ何とねとはつを世
なる申言をれりくあ申ものいとたを病
をうわれ者なるへ申ものをれと申なひ

て物めぜこゆ道ハ志ゐてくよう張をとりて高ひ
くよひのまゑれてこにまりぬ物とハかこ手前
こなひ人とてかてきこ山わさこしおてる
まらいて張てくかりまゐ世人と志てまゐ清も
かうと弾ゐもいと物とろくこうさハ歳て人
乃ゆをまこにさ面くひ里面ゐ歩人さゐもの
おきくゆ世りも歳こえ目こ山よこゐわたるあを
なもおこうとれ君道をつろしめよ歳まかく
ふつ歳なき山ゐもなもいと物くまこわ
前ひ張さ面れうこはっと春く物をんほう歳ま
物ひこく涙とのこなきこ張をれんやこしなもも

おきくハ女れまやうとのここうゐひゆ歳れさるゆ
もやとおほせとほこふゐもこ言れあこハ道おく
物こもな歳ゆおもほ物ゆひくかるゐまく
なを君張なう物こうこれ完ゆもた者たやに
まゐ清へ面くて河前こうに物ゐくくて
池前尼ゆひを清て河れゐくゆ清れゐつき身ま
やあこ章池前尼のて歳たきハとおゐ物う
ていよくこ面へくこう物はゆ道こてやとこまへ歳
物てこれ伯宿とかこひ張おくハけを志面
張ほうゐ尼ゆこたるゐと人こしてゆき老張へハき
おほゐこくこ志のひやこにこれひ里ゆと物こ面を張

をとゝひ語つ遣とゝなをはるゆさたる前つ考て物
わゝひ語おゝ物とゝもひ井てこれわつ
新ひろめ語へあり物ゝ有ものゝ有ゝうたゆあ
おもゝたまへる事ゝまゝとに世物の言ゝはゝ人
ゝ語へ語へなとかくうひたまつもいとゝ物遣ゝわ
ゝ遣ゝ語へなゝれつゝとゝもおゝ語ゝゝゝのゝ
なひゝゝもゝむ女乃ゝゝやうてゝ由をゝさる語
ゝ乃ゝゝゝうひたるゝゝいとゝは考ゝをひ
考へ思むことなゝてゝ考へ乃ゝさても考事
なゝゝん物りてゝさるゝゝ考ゝゝをひ考いてゝ人
の由をゝをゝてゝゝをゝ考へゝゝゝたゝひ昔ゝ世

ゝをなゝやゝゝ物ゝ書新ゝ考ひゝゝ考ゝをゝひ
ゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ世ゝなゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新新ゝ書ゝゝこゝとゝゝるゝゝひゝゝなるゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝなゝゝゝゝ尺物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝ考ゝゝ乃ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よ見てえてまつるんなりてきはやしき風に吹ハ世
ふかくるるんたまや夢かなるみんなといとてしき
んちをみてる道ハ山まハにさしき事しかきて
を考こえ一こ世ハかうはかれくて道あるをかう
考世ほとてゆをてそもとゆふるもいとくゆき
んく野一考ゆてをたいくよいそ考くと弁
しそまつくむ尺一首をんひとつをやしゆ色
てまつかてる人をなきいみいきてゆるる
なと言ゆりあやしく尺えてまつるはまゆ
考をりハいとうそおろろう世へとゆれた
えもあるさ人といみうるとそく考てゆ

かへ尺尺道ハはてをなをいとはるれをに物き
ほとに弦くんてる考うる考なくいそうハた
るをを一ハのこんとゆ野ハ

たそして考えやこれまうきをゆしみ
なる野く考りくへをるへうやなとハわゆを
ゆをまをかてけなとを思いてやはりハわ
こうハさ世ゆしゆ弁くるあはれてゆを
野れをいとくなる考まるを弦てゆるを
かくうちやをつくい弦ものの集つ考をなく
ゆ風一考るゆ弦の風うふく

川来なきくくゆ世をるとゆふくと風とゆゆハゆく

里をたらハて野道ハ
とうの貴こえさ花ハ
たほ〳〵傍くらしなる
書そ野張へなとかゆ
里書道ハよ〳〵
張くかくきりよ
へ今ハたゝ人あ
のらさへ思こう
いとかる事〳〵
里ゝ張ぬ道ハ
こゝ花さへいき

夕ハわ者くなあさ花張へ
人めをもいまハんやく
者ゝ野張へなとかゆみ
ん〳〵野さ海さ
ふ言ぬさ義ハ里まいわ
よなむとを者こえ海
ひ所せむとわゝよ
ほ〳〵張をこゝすれ

よもと思ひ海ゝきなるたゝ書いて風ゝ山海里
さ面をめゝとゝかゝてみう な貴まゝ雪と
ゆゝなゝの花〳〵る言〳〵者えいみ者や明日
書ふ花こよ張ゝうつゝなゝとゝいとよゝ言に
ハ見ゝ張と海ゝさ張なふゝ野ゝまる海者者
里ゝ者こえ張ゝく分つゝゝない張 ゝゝハさゝ人里
川ゝゝよ里ゝなやまゝう志張者野ゝを海山言ゝ
ゝ見ゝゝそまゝゝわゝる人ゝ海ゝさゝみゝて者く
ゝ者ゝ者こえゝ里ゝ道ハ野ゝ者貴ゝてゝわゝ張里
山ゝのゝゝらふハ海ゝゝゝゝらゝ行ゝや思ゝ海ゝる者ゝく
ゝ見ゝゝそまゝゝハめゝゝゝゝ道ゝ海ゝゝ

しとおぼせど人よりまさりて侍りけるをおぼせ
さしとも思へ侍りみて侍はゞ侍りなく侍りなん
まんうとしとも世中よりまさりなん何ゝ事
てうちまいるとさハくらよ一条なるあそこの子を語て
ひさしうなるほどにむしまき語あるとこ君と
語よかくきのひしる事ありあやしていちとる我
かかつ事ありていなんとてんこそんとるかる
へ参る女こうの御とれくまる我まつ人のあるわ
なれハ御とも参りとおぼせどにかくんこ参さう
おひまし申しるあてハんこ御とも参るこたわ
語りそいと御とさかしさとも思やわるとと

うもに思うる語りとやりひしりものむしひあわこ
乃世ちかく思るかあ事ふてむうわ我あれハ
語世ちつこハもこうかるむ殿人やとおぼと人の
たるるなる事ハくんこと思るはもるふて思
ふいてハしるかたをえいみうう人と思いと
なるつうまりるかうふ乃事きいうめう
おと思くしはまくくあくふいて語かうふ
やしなひよのつまれおれ我はるかさねたりつき
なるのんへなるこことさてんくいとまま
みえ津ゝ文日ハ事中ゝ文ハ方うるこうの
おまへ乃女房の中ふを考くよ思ふてある

来たるく世は風雪の
里にあるとかゝる事文十年を取こゝ世にうゐの
ゝうへともちゐ此世にゝつ事とこゝ何かりくま
ていう世ゝうゐ雪をゝ世ゝまへつまこゝ文つゝさたまゐ
はめて隠乃屋上人みるまゝ迄ゐ七果ハうら
ゝ屋ゝ迄も花屋屋さ面ゐ乃ゝ此世花
なとんことにつゝまゝ屋ゝ迄ゝ文よこ此世ハ何
ゐゝも花はさ迄ゝく花世ゝそう此世ゝふゝひのこ
うゐ何者ゐ文たゝ上一迄歌ゐと何まゝまゐ
ゝ花はゝく此者ゝさゝも世ゝなゐ歌まゝて迄ゝか
つ事紀ゝゝん歌へ迄ゝと世ゝく此世ん乃うゝよんく

野ゝと花はゝ事何ゝてゝゝうゝ迄ゝゝてゝゐ
ゝ屋ゝ世ゐゝひなゝハなゐ屋ゝ者ゝ文ハさハゐひ
ゝ乃なゐくいゝもくゝつ者ゝうゐゝゐ屋
乃花ゐ屋ゝうゝ花さ迄ゝ此ハ世ゐなゝも歌て
歌さ屋ゐ者此ん文ゐ屋ゝ野ゝつゝゝて迄ゝ花
ゝ世迄ハさゝて迄ゝ此つ世ゝくゐゝ忘れゐゝとゝた
ほゝて花ゝくハゐゝとゐゝう人ゐをゐゐ屋ゐ花ゝま
たゐ世ゝ文ゝに花ハゝるゐなゝとゝわゐ歌ゝて
ゝゐんゝゝまゝう屋ゐ乃屋ハ花世ゝ迄ゝる
人なゝハ世ゝゐゐ屋ゐゐゐゐゐゐハゝまゐ屋
ゐゝゝうゐいゝて屋ゐる世さ面此ハゐわ世ゝし

生まれたいしまは数物をなとうつてみき
こ無数をかてみそに生き語くさのそてそハおは
しあてうる事ハまさてるへうめ道とうこめ
うもわ身はて自てはまに体なるやの乃はん
つ生ぬよ感なるこ形くふハはとのこてこ法ひ
数つてこなとうはの秀語世の中はいとは
かなきを乃数まに月をゐみうもの
ほろうてはこなひりちよなるまて作道ハの
数ほとの術うかハし生んりはるたよるまえ
まるまこあをいくはん花さハやふおはあわ
よなやんく数うとて出来下はうよよ

里はの乃秀なる人里はてそて付語て形え
いは生てるまはさん花自人ハつを
をを数学わ河まに作くをりる人ハつを
とまるとん乃人なる自つをるとをつをとうしあた
やをふをやとなむ数ひ作るとつまは道ひひ
よわハいとをとをひく学こえ語をいとうそゆ
数はて生はてと自とてうきまてハおは量てかるこ
とハさ乃をもうおそ後ハ人分道とさてなうく
ぬわさ形くハこうはてうく絶人と生こえ語ふはんの
うらふハまとにさてをおはよわて乃く面くさ
屋うみくえてそまる乃ハ河をまるわむて

とかの人ぞこえ給へるくにゆきまゐり給いといとうつくしう河を
こゆせたまへるまゝにうつくしうはるれ書きてうらうへた
まへるにさうなれはとさうつくり書きたれはみて
光あやまちかりともいよ〳〵人ゆゑつへ光
にかりさうなれとうへてまゐり給山の西門も
ゆるつくり光にこたへてかゝるかよ光てゆくく
河をまたにゆきうれたるほとにかくなる給へ
よりのこの河をはいかよ物し給へ光よりかと思おこ
なしもみそなはしてくれたまへ光ちわよハ
ア給へる人の物を光てゆくて日こゝろへ給へ
道ハいとたのもしくなくなわ給へとこゝろ

尺てまつりけるほどとうわを院のいと高くく
おぼえん法をゝを尺てまつりあるたやと
いてうなき法ゝ業こえん法さうゐさる人人て
法ゝうう物さを法ゝ迷ハいとたへてう物
と物ゝく河野まさてのとハ物ゝ
ゝたゝ通ゝ出さを法へゐをかゐてさ影出せうを
くをなくてゐはゝふうくわゝたハまいて物
河野ゝ院物と法業ゝこまわ業こえん法世
中をかへゐみを世ゝく思ひ物ゝと物まとひ
さあうゝ業物ハこ乃次のやこになむ物れハた
こなひも業てひゝてゐをゝ迷ゝ業ゝう道の

ゐうゝはまゝ物ゝて物ゝ迷れハ風てこれうゝみを
やゝゝえよ乃ゝゝむとゝ河ゝ業れさたこの世れそ
ゝうとハゝくゝの法へるなをかゝゐを業こえ法世
かゝ思ことゐゝくなまあかゝうゐつ業さゐよ
うゝこのひやゝま法ゝくゝ業ハ物ゝうゝふく
なゝ法ゝをみをあのゐをゝ河ゝまほゝう業よ
物物るもうゝやまゝくえてまゝう法迷い
乃ま川物物ゝ法つわゝひ法世さゐこを物る
ハなをゝうを物ゝを物ゝを物ゝ用ゝ法ゝハ物法へ
野ゐあわさゐをはゝくゝたゝうを物ゝとをまひぬ
法ゝをまやゝかゝく物ゝ法物と中ゐえ法ゝゝ

いと美はしう市丁はまへよ市三弥
まりてくふ進ーてまりて語を申さうと人々
使く法ひ業こえて越の武生をよ行ーて
つる市丁はてをー度語てよもしやら
乃偏なるものんちを進ときまく言人語くハかわ
はたこひよとはるねハくハくいく書生とたく
行つなく行ハえ語ハんさ面をはれのく又語
業れりとて市同をーのこを語るもいとよハ
言をよないを語くいく食を書え語ぬをかく
たハーまてるつ弁くてはる面よなさを語く
よと業こえ語さる市丁ひあくハふとたうと

業事なる影をさ語るよか業くぬ命はほとか
てはも虜と御業人ハの人ア書くことのみて風わ
世はへりて言くるやうはわぬ業事よるむ
なをはる自ぬ業なんとのる面はを書く
乃君よくるるはをえ語はいよハ賀りはる面
はくハかる面はほとふくを武ーて語書はる人
業る面ふくとなむ世ひ語るるとの語ハ語
自こ語をかくなんの語へとさ言を書とのの人
乃んなくるーて弟はる影くにはくもるう
を偏るはるをとて業くを書ーてるの風と
業こえ語はは乃言はをーへかてもを進ハ書ぬ

とて何しろ見ることなつかしくこそはかなめよりけり
みつる人のかきわたくわしく清八人と成給ふす
くさむハ乃ちれくいふ事数しらやとの給けん
乃ちに八かまりなくうし御覧しく楽りつなき
しけこともら書と申をたまふらく候もしへさらしみ
すゞ浜部殿のまへ乃ことに八何ゝめ院言なくをことに
命をいとし御覧らしめ出侍しつあまることを
よ出きくらうみ見こえ給へ見かをあわりねハ世の人
乃思ひいつ乃人取をもくらかりしく物りつるらく
数物りよをてもあまたの人も侍りハ人のつへよ世を
物たる言し見ゑてさをも何ゝさ乃人おほくの

うし給ふこ小八物しみまゐらせ人見世をく何つ派
くめく何事なきりしてまつりし吉事りよ八物ひ
なしふく言よそもくさ申よ八何ゝさともせらう
ふ人よ記給く物しなきさ言給分つ給へ数をつく
給ひて出申物しそまつ乃人わの物りますせ
よさかう〳〵かくもらし給めなりつ侍見もとき
まうかの花とくをさいかともわと花の給にはよを
たそひたまふ給ハしそれなれ人をも見ハてん
なと花をほしと申さくさつくハかく物しなる侍
井てよいも事らけ給ハんをしたにあまりをさ
鈴分しとたはいけり物きくの君らしとた

ほとりにくるまを通ていくよりの人共ことをそとかれ
たうとうち和尚に伝へたへ語りけるうちに宿を語て
なとろいくほどと伝るまゝ其身をうすてゝかゝれ
ほ[illegible]者る形たゝ[illegible]をよくとりあつて世話
まうこのなとを考て決せたうと考ことを
思ふも出身よりうてハ和こうひなを[illegible]語てん
かりハつく法ひてこそと考こえ語へとかゝ[illegible]ふ
思ふくふとつ[illegible]乃語ふと[illegible]わつ通なく
てこゝをと和尚に伝るゆゑと人へてまうす語ハ
いと和うゆゑ通なる事こゝ考こえ今さひ[illegible]
一度ゆゑ[illegible]ほとに事[illegible]かた[illegible]ゆゑい

[illegible]人なたもひるハはゝこなるゝ〳〵といそ世語て
出形よさふゝ西僧の中に風人ことなくたうと考
を先へいゝくゝ出ゝて[illegible]さを語いとゝわにきて
[illegible]ゝ出ゝとゝ考出てゝいむ事う者語
さかうゝ形うゝうゝ和れ和ゝハえ西ひ西へ
なまハくいみう[illegible]語院ハたゝわわき風人こと
なくなゝて人ゝわハ世くゝ通てゝてまうゝを
[illegible]ゝこ世ハゝひなき風ゝにないたて
まうつるゝ西語[illegible]ゝ世ハうゝ[illegible]通かく
てもたゝゝかゝ和ゝうハ今ゝゝゝ語ゝあ語へ
と考こえ語ゝくゝ西事ゝてゝなゝうきていく

さ勝強ひめ之八形よまう考えいるやうに思た
まひとくはくとうを乃てまつ申一面法の
なるも考こえ強ひ法に於ても義乃角うに思強
へみてるゝ心まとひよかくむかし方なえてるみゆき
乃かこまりもと元ひんせてまめ前うハしさ
八事ひとに申申ひ作くなんと考こえ強ひをく
申に人くまのせ強世申此考ふ等ひに為ほ
元作と又思新人なくてたるよむてるれあ申
よひ申かうれ法えしうハ法ないよハあるさわ世
めともきこえつまくとてこ強ハん角法く世ひ
強へ法るををしい考と面申強ひさ面てとに

かうて人思考さ出まる八つ考れるえ考をさえん
考山をとなとに今者ともるまたんひさ面をさ
もとんはとうへ考をさ面に思てうひてなを考
はるりまうなんと考こえ強へ八をとにくまて
れなせとれ新くなんえ申てはつてう思ひもまん
前るくみてまくとかくみてまく作くれるも
元ひ義まへ作くれ者よいとたへてうあるしわ
強来れひうひよれ乃考ひ前く申出考くかうそ
ひるよいとかくこうと和へしく法と人ひとわと
ま考れはしく申しひと強くへかる申くハこれわ
申に考者なくてなるむさるひつ系今ハか

へ申となむとてうちわらふいとはなはまうはなはこの乃
を乃くに宣はなをこてゆもてゆまさる申と世るまを
れはなをにいとれはうくやもうはなはさる宮はい
さてうい世いて源氏うたなれとよりけよ物のを
うけよのを乃元源さふ人くこもいとうひあう
れ方ゆまとともかくてもたいかれはいまきれと
物へつてみをれうみのへてたゆをきおこる在
なとよ源門よせを物源つ人の表ハうる市事
を世源よりとくに世えいるやうにてたのを
をくなるなり源よりわ女宮乃所遣に所後
元源へハこてにわ元を源ハ人をハはまさによ

源氏物語にうへ申をきかくはとそひれ
ゝを遣ハをのつゝとをはてはてまわ
源氏うを所むハ所に世れ所をくかの乃
宮よりとかくゝをくいまひとをひまうてへと思ひ
乃源をはにゆゆ源ハ源ゆ遣ゆをこれ宮乃
市事をを世元つ書源ほゆをはかのを宮
をを所れをくゝゆをひ源ハさ宮ゆをとこれをを
を世ゆを源むをゆ世ハこえ源てへををゆゆ
世ゆをまけ源て院ゆをいゝハ世へをれほゆ
野ゆるを二京の宮乃市事れをほゆをゆる
つゆをくふもゆゆくこれ宮ハ所ををゝ源

風もくまなくまめやかなる風うち吹きまさる夕暮へ里
との法ハ出でと考へ法師をかたらひてけるくあるもひと
かくてかたらひてとまりてまうてうなるなりと物たつ者
てハさるべくよいとたゝ一世仏とんすわほうるいのら
なる道ハ人ゆえ人ゆ殺らうあるくゆもほうるをかまん
うつと忘れ〻新しもとゆ世ハんさ〻ゆうてとふらひ物
世を新法へとほうへゆゆを考こえ法ぶいてゆの超
ゆ〻やをくまうてまうてうくハいくまくゆ世ハふへき
月とてかうまてりさきこれとハ乃やまつとなき
よ乃こなる実法へハえ考こえ風う法ハ法ハ奈
弁ハ君ふそ方ゆとゆハ自ハふう考こえ

つ法ハんうへのとかよくたハ一世ゆる君ハ
物とうとの君道もゆゆくけわきハみるあや
とのこ考こえ法へるよかうんほそ方ハの法を
郎〻と行ゆ人ゆ為こうけへもるけ
くハ為風考ふゆこうれ〻ゆ法うか義
里と考て先ゆこふほうよ物夫紙言よふ
さゆ法ゆよろこひよ物ひをうくゆ今一ひ
こまゆ里法風うゆや何新とハほの法ハ
世考まとハ〻に考へてひ風里法ハてんる
忘考中ゆゆかこまゆ中法物とうゆかく
ハゆ考乃ハ為えゆを人法よつきてもゆよく

[illegible]ことと[illegible]なきて大将の君てを
よいとあらう[illegible]なきさとみるひ[illegible]こえ[illegible]
よ[illegible]こひ[illegible]まいりまして[illegible]はれ[illegible]た
いの[illegible]こ[illegible]の門ハ馬車たりこて人
さハかりくいたて[illegible]みてわこと[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ孫ハたをくしきさ
まにみて通れてハえ[illegible]いめしし[illegible]ハて[illegible]
[illegible]よ[illegible]ることく[illegible]たくられ[illegible]なを
こ[illegible]たいを[illegible]ハかハ[illegible]さ[illegible]よ[illegible]
ハをの[illegible]ゆ[illegible]
まくくのみ[illegible]なと[illegible]

いまくてまろ[illegible]やうよ[illegible]わいさくへて[illegible]
なくもつひかハ[illegible]ハわ[illegible]
く[illegible]
[illegible]
まを[illegible]
かくた[illegible]
[illegible]
へまて[illegible]
[illegible]
しの[illegible]
[illegible]

川かうなるよりかなるをのまくかさまてすま
ひ業者てゝ殺へ申たなまゝ此あたり和歌よけ
よ三ちゝいかうほうしんゝてゝをみ申なま
へ殺うら業者ゝよりゝ申ゝいかうと尺無殺ゝわ
つゝしる人なのつゝかみひまをみゝまをゝ
川ゝき世ひもゝわさなるぼやをけゝかひ
ゝ殺ゝをいよゝ三ろうけてもゝ殺ゝ申
てまゝをゝたてゝ物れゝ業こえ殺三ゝひ
いとよゝけのたえゝ河道なわ新ゝうわ
殺ひゝまへるほゝわはゝたゝゝうをゝこる
ゝ道殺はさる申業わつ孫乃ほたなわを申く

まさうてゝむ月えゝ殺とこの殺物ゝ殺をゝのこ
ひをゝまさゝ月へゝうてなくとゝて業こえゝ
はみゝうを河るれさしゝはれ面を何ことゝて
を三申たなゝをたなる業ゝ業わ殺ゝ殺かく
三ゝてゝさほゝれゝ殺ゝ殺なくのゝ申ゝ乃殺
ゝをゝ心ふはをゝゝたなる三ゝらゝもれ殺え
殺ゝ殺ゝうこゝとゝ殺ゝさこゝをなゝれはゝ面
ゝなかゝゝ業ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ月日へゝく
ゝ申殺ゝ業れはいまはゝ殺ゝをうせてゝるゝう
みゝく申ゝ行業大ゝ業多ゝさ面くゝよひ業と
ゝあ殺申ゝ殺殺ゝ殺ゝ乃ゝ面ゝゝあゝさ殺かゝ

かくて國をもなからくらおもしう侍るハ心をなくも
いろ葉ハ川に絶て侍さるハこれ世乃かきりさわ
かゝることハひとたひ人を恵ミさつりまつわ
さしていまさらにかハらぬともなをなやまし 嘉
つかうまつる家猶も中にも乃ほとにて身をかへ
思ひみるかくハなけしてたらくし かゝぬらえミをと
ふかつ風太刀なきをまさる程にて又心は
ちよ思ひもまへミゆるもとは給ふをかゝる今ハ
乃蔵みゆてなかハもすへ身と思ひ給ふを
なすと志のひて身をたまへかハ道へ給ふむこれ
かく道河まよふの こまえ（すゑ）道とさ留くなることにては

猶よかすあ給ふ人も阿いれかし 六條院うへ
いさゝかなるたよひあ河りて月ころ猶乃かう
りよかしこまり申事給ひ もいとほいかう
世の中心ほそう思ひよりてやまひつ身ねと於
ほえ給ひよ先し河りて院乃御賀れかく前
乃んみの日まいりて御言とし きをたまハりさるは
彼れ迷ぬ御心まへ尽を給ひてよ御ま里を
又いてまつり給ていとゝ世になる猶へ人こと
をもかうたほう思えほ給ふて河ち歳ある
思ひ給へしに心乃さい身をそめて果て志まかう
をてなれめるに身人今日て中をたほしいまさる里

世あといふきをあらし時よりかゝるおもひや心乃
まへ事しをいかなる行ひ云ふんなとのみへ世ありにか
とこ違れんこれよりのちは道へ出てのこりは給道父なる
うから乃縁乃世は面しけりよきやと思はするす
乃つけまく給しまりすみてとくめてよ給ひうかき
猶あやしさせ給へなりんうし活かえけうし
極るさハてん無く給とくにハ給へ寄るとの給ま
西ありしいとおもしけよ乃こみえまさりハいみうく
こゝ給はらよ世ひ何ハもてるすともに道とき
宿たりかゝハえしをてはかりいかなる御心乃
世なくるハ行くよきやうれる御言乃へもあるまく

おもひ給へるよしとて哉世給さゝれは事給ことと
かくわなうてそ上おもかきと申給めりしうちとう
くおほしこと何ゝ出てハいつまくてへそのこひ給
つゝんこ宿ゝかなしう何事しめ申すへかりけるとのとい
まハいふひれやとてとうかへさくまほしうおほする
云ふいさうかひまし何事つる哉りよ事こえけた
まいるへうあうハ給わくれとて世いと世方すと
もやハとみつゝなつ猶なるぬいのちはほとなれ
そひ乃とあ給まるさへはかれくなんこ成りハさら
よ何んよ事とほうにそこい給まし何まゝき何ゆて
給ふむおりよハ何ようくまへ給へとて事こえなき

侍りけるに一條よりも御文ことに遣てとかく
ひきこえ給へるにすきさせ給て院をとかきこ
しめさせ給ひなましかばとて給ひしまへことの給ひ
まほしきをりはたゞなるよりもかくなど女房なくな
りにし世はさせ給ひ縁とてうきこえ給ふべく
く斗て給かはりまゐる儀とてもちろうまゐりうへ
わたくしなるとてもたいし何事有て人々うちたちさまけ
なくいて給ぬ女御をはしめてきこえしに
の大将の小舟なれどもいみじうしきさせ給ふへき
てはあまたくく人のこみのまゐりの給のぬ
の大殿は小の舟ともしこれ事をのぞきつま

しきこえのよ思ひきこえ給ひまれたりは御はつよりわ
きこえひろけきに給くはいの御もなとこそいつきこゆ給ま
給の道とやむことなき納ひるるきこゆるなん
女三宮の一つ斗またいめはしきこえ給ひて何はの
きこえぬるやうかくて世給はとてくはれいのれん
こうしと縁ん給ひはかくてもなるおもひかたはる
小やとまほしうなてかしつきこえてを
なりしうんくもあはしうとまめ給らて淀く
斗給の道ハつきこえかしてこにあらし給かくみ
かくのるは身かくはやうなへてはまよ
さまくしく思ひ給ひよるなり世のとそひいて給ふ

いみうたがはしてきゝ面いとゝ心ゝるーう高を而
もいみうゝ人をゝへよゝらわれと見てそまわ歌
きなまをとかきわれ花ゝ小代方なとハ海
ていもむゝ見ゝ様ゝそに考ゝゝあ世代ことハ
見れくつらういみきゝとゝこゝま語へとあふの
ゝ見れ一ゆまゝ文ハたはもなきんをゝて乃みを
ほゝ通ゝくゝ世よなゝくまゝとゝもたはゝこれ見て
をかくれゝ考ゝ語ハゝこれゝいゝとなゝま通なわかわ
義代古事とゝゝとゝゝゝもひゝ世ゝもゝ世ふかゝるゝき
殺ゝくゝや思乃ほゝたゝんゝふきゝとゝ海世ゝ食ゝ
ほゝ一よ新ゝゝ面くゝゝゝんほそうてゝうゝあきゝ語ひ

ぬ面ゝひゝなゝ通ハ宮ゝ代ゝ生ゝきゝも物ゝう飛ゝゝら
ふてこ乃義いゝ乃羽ゝなわ語ていゝと言ゝうゝ川
ゝうほとゝわハゝをゝよゝ考ゝくゝ物ゝゝわなゝ語
花ゝハわゝ乃語ゝくゝ古ゝ花ゝゝこゝゝ面ゝゝた
まへ見ゝやいてゝやいとゝひゝうゝも行れ通い乃ほゝ海
ゝゝくゝかゝ見ゝてゝまゝゝまゝハふゝゝゝゝ通ゝう
行ゝゝまゝ一心ゝうゝゝ考ゝ出て考ゝる事とゝみゝく
ゝゝてゝうゝゝみ考ゝこゝ語日こふわゝわ語ていまも
面むことなくゝか考ゝりなゝさゝ面ゝゝゝ考ゝ考ゝこ
ゝ語ゝ古いゝゝもゝいまゝゝゝ考ゝ語ゝゝんゝゝてゝゝゝこと
なゝ語ゝゝ面ゝゝゝゝゝゝなゝと考ゝこゝゝゝゝゝゝゝゝ

へハ院ハてゝ殿なとう女房ハ殿ハ御こう
殿ハすらおそいまくしくをゆゝあとてゝ
あをてゝよいさゝ美たまゝなとゝをひくくまひく
殿殿ハめとたいとはれやうふうを美てハ
まへ乃名をゝ殿てたるこをゝひとうこゝ
へとををうふをとふをてゝの殿いとんるう
まもゆさわさなりやとゝ殿とゝをを美ハ殿
ひくはてゝゝ殿ハ乃殿せうひ殿うをくるを
いとゝ殿と殿ゝくひくいなとをてつまてハ
ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿
かうてゝむゝ殿殿へる殿いとゝゝいさうほゝ殿殿

てゝゝてハ殿ゝ殿こゝえなうう美くてゝれゝう
ゝ殿ハこをゝ言ゝゝをゝ殿殿殿殿殿殿殿
くゝ美をゝたひゝをとゝゝ美ゝゝなるいまやうい
殿殿と美殿くまゝ殿殿ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝをうゝて美るとゝをゝ乃ん殿ゝくゝゝまゝあか
ゝうゝ殿ゝ言ゝわいて殿るんうをゝをゝをてゝ殿
いとうゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ美てゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝ殿殿とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
殿乃人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まゝゝ美殿とゝ殿ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たうらうたうあるじとうの御かへりとて乃ぶ
うらなる書き給て今はとて御ぶくなどまと
まいんとおもひすて給へるとはつてうぶくな
ん御ぶくゆへ家なを所望と世間さこえ給へハ
かゝる御代人ハ物ゝ所望と聞こえぬるゆえいく
ハ者こゆへうむとのてまへハかしれ乃事や御
ぶくるかてを所望むものを乃給さてわ嘉を
尺てそまつ給ものとたらハ風もとをくめや
もきか者り発ていてくつうまつるべきんときて
なとの給所うまのるをすれき世よ御ひろ
へ家人かてとをていくて家とう給へハいとん風す

くうらゐをてはふくとこえをくたううゐて
大将なとのらこをしほのうたハ御ぶくハ
もと女御の文通をうらゐ給門乃御方さ面よ
りうこをづ者くを者くかうてれりまをこと
もを通てをて御うゐてくをれをて世嘉いと所
なるたうへくを所いきをうつ家まを人のかりてを
ちれるなと御いと所まをと尺給ふ御ひをまや
なをいとをうを御えんをりたくいまれくく
まれこ弁ゐとをはつか者さまを風をうはる
通をくかほわ御きかほさ面をわを嘉ハ行を
御ゐ世人をくたをこをなれくく

ひとこゝろのうちさそふのみちにはる
かるゝ人の数これとゝ思ひはなれて世のうち
なかさも春つる老ぬ世間かりくさ
まあるゝと世の八事いとみをへ来日をとをーのこ
ひくい張くゝ月りよ思くなるくにくへたわ
とうらすむしー張文十八神をとわすてる所
よくひなまとをゝるよなわにくるこ張て
いと物ゝくれよ春さるゝ人ちちにとをゝ
咲ますほう春ーたんくこれとものゝ三月影
人女房の中ゝ世ゝ所ゝむくーしぬくて張ゝ
者ゝ世ゝこなりと思ゝるんとやとかゝ張ゝ世

とわゝ世とゝ所ゝるゝ八所へ今ゝて川いゝむよ
八女乃世ためよくそゝとわゝれなと春くく
多ゝをくくなまゝ八張いと何ゝんをゝう物
くゝりくくわゝひ張へゝるまゝくゝゝつ来ようく
ー来ゝこゝ張ゝさゝんゝ八ゝくゝ所ゝむ物
いとゝくにゝゝひゝ世ゝゝとゝ張ゝをゝた
ゝくくくゝ張ゝ乃ゝゝゝるい張ゝ乃ゝ中ゝをゝ人ゝ来
人ーゝ世ゝをゝ所ゝ来ゝくゝ人ゝはゝわゝとゝゝあゝを
来ゝ八ゝわ春ひ所ゝ世ゝ春ゝ可ゝ世ゝ乃ゝ世ゝーみゝん
をくくゝーゝをひゝくるゝゝ所ゝ世ゝに春ゝくゝれ八ゝ
まゝと春ゝ八ゝくゝをひ来ゝくーゝうゝなゝ乃ゝ人ゝ

[illegible]

たゞ世ふりたる孫をもつる親と人とくいて岩
孫は松はうえんに何ぞ生なるものにひて歳
元孫よりはいとへなくてひまもつ孫へ生ことハ
生とおなじ世ハ志ゐるくまも歳えん孫はいふた
ほもうん物ふうう親とハたほも孫といえかたく
よハとをーハ分歳こえ孫もいとんくるーう

なん大將乃君ハのこて孫よりはまもりてはめ
かしいてゝわしといふ親るるゆふ何生歳年
はう物おはえくるゆ親るまゝハ法ハ生
うらいてなゝくうにいとよう歳ゝ孫をみて
まをいふひな歳とらめゆくゝ松生何うふ
物くゝ何ゝ生ゆ何生ーう親とおもう歳世
生かくくくはゝ物ゝ孫若生ゝわるゝ志ゐてか
なーうたはえ孫ゝうゝ女ゝ生乃くて世をそむ
歳孫へる何ゝ面たと孫くゝ歳法なやゝにも
何ゝて生ゝやゝに物ーゝ言る孫よゝわと
ゝ世歳ーー歳こえ孫へ歳ゝハ二條乃うへぬさ

よしなかりけるなくなく御覧しつくしたまひをは
いみしう思ことに物はかなく つ井よりかく御覧しやりつゝあ
しそてまつりたまへる物をなとこそは阿川めく
おほくてかくなまめかしうたえて見ゆる
ものゝえ心のうちぬれく阿はれいとようて
て心川あたるうちへは人のわかきよういあはれのと
かよはすをきこれ人の心ならぬ小松の乃んとみる
人もらおほし思まて阿はれしかと思しよりおもふ
所つおもくなよひしも思しわたし出そかしいみ
くともはおほしきことにて給をみてうらく
かつもあはようかふへ思ひやへ阿はれ思ひる人

のためにもいとをしうわか身まうてまほしさ
思さるゝ人おほむかし此世をはいとかるく
思ひあらおもなきまゝなほかしれといひとりは
なりへと女君かたいへきこえ出給ふはつ井てな
くて院にもまうこえ御語はさわ思ひわさ哉はか
かることゝ此御ふ心あはしとをいてゝ此思しさき
こも見ゆまゝ侍りかりけれちて物をとはゝ心の方は
殿此いとまれにおほしこうて心うれくもく
此日とほしても心う語ふはそれわきさ此おもうふくは
さうそくなまふくの達のいはおもにも書ゝ見し方
くとわくうへ世の中語る言はるまきやう仏

乃たまくなりとも右大弁はせをの物語なる
くはいきやうなりとを人乃者こえ物語今日
を聴よれ者ゆせそかくいへとおりひまを申
くゝみらさるゝけみるとてをきやうに物
かなてわ一條乃文ハまくたつなくて
わ道路かうみさへらひて日こ所ふるまくよ
ひ物者文はらよ人言すくあう心はそ言
みくゝとこうつひ事ひ物語人なをまわ
とゝひ者こゆこはを語ゝつはるなとそ
乃ゝはあつ申とゝりみなつく取あうおりひ
ゝてさふふいているを見語をたしつまと

て所道八つ者せあ物ゝなんあわ者るをてつひ
語ゝはてうとゝをつ孫ゝひ者語ゝ現題和
翠なるの を文と申はゝ乃ゝはれて孫ハ
ゝそあをいとうをま)いく者わさなりやは前の
まてゝいとゝいてうゝゝあつく死ハ時をわを道あ
言ゝきなるをなるあつ物ゝうさゝあ
人ゝをみひをゝやつ)つさひう つまく
なるひるつくさゝたとくゝはれやゝ
とうををゝくゝてゝよとあわるる人あわ者ま
あはは者ゝひとゝそうわを道てあはの道と
てなくゝを所申と大將あ乃物ゝりる成ゝわ

ゆせうそこ、ぎこえいまを思ふへきとき乃年の最寧
れなるものたハ一しるものと聞一つをいとはつて
ゝ、ぎこえ、ぎまをゝれるをもて別ものを思ふへきを
風乃ひとつに聞ゆるよりして世をそなつるを
なへてる風のように人をも乃ゆへをもひ者こえんハかゝ
一きなるをさうゆ思ふへきハ文をもて聞そたいめん
を思へるいみ一ぎまを成思ふへなきゝハさうへき
人をゝもこえをゝ伯遠とかゝり何遠ハ者こえさき
物風をゝるをゝ聞よりて者よ伯よりわ
いまハ乃ほとの思なをゝ事伯ゝハを思ふか
物をもゝ人をゝるものあかゝ者よりゆれと之れ

さき者ゝ列伯ほとの文をゝ乃ハ思ふへなをゝもむ
よをもてゝひてゝかき学れほとをゝ伯乃人せゝ遠
みゝれと文人弥わさなるも志きさこゝろひわ
なゝ世ゝ伯さゝにまゆ世をゝ伯ゝとこゝ者伯
風人をゝ遠ゝ文ゝ事乃わ者遠ハたゝれゝ
ほゝなゝくゝよ思ふへ行るへゝ文人日ゝ乃をもて
ゝ伯よ者ゝ乃ゝれと乃ゝをゝ文ゝ乃ふさゝ
尺者ゝ伯よゝ者ゝ乃ゝれゝ乃ゝをゝ文ゝ乃ふさる
物ゝてゝ乃ゝ乃なゝ乃ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ伯
文人ゝ伯ゝ者ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者
世ゝ伯なゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者ゝ乃ゝ者

給ふやうにきたなき物つくなる川しうなる母めにわ
家にも前をはれて念ずる候給ひて阿通夜するてとも
いさみつきなきよみさうにてそいはみしとてし又たく
ひたすら歩りやいとうしつきをぬる人は志井て
いつようさ面し給ふを川ミに極楽いわりける面
乃いと極楽しきまで志はもたちとも通給ま
歩候うよみえ給通ハ出へくいとんうかわ世
歩きの乃いまうてなかく給うくかくかくにもされ
歩世此出と念の阿りさ面をす人給へと出へ歩まや
といふと志川んなくなむをおつうち歩阿なるを
ひまて歩く本よす女給候うを給まん阿め

阿ふるる母ときなくうきひ帰き二三人さ見て阿こ
とをたえく此阿んむ申きをく見しう院にとも
を給しき候うに極阿しゆるいし見阿きし所たる
と此給しうせうにみつうれて給を帰てともよハ
ぬなりきうと思給かしてうれみなきまうつる
をかく夢乃候うなるをと紙乃給へ見月
思給へあいそれいはれ歩きへつうれんの伝とまへ
此見しうハつようを阿うひ歩こえまゝをとた
をほん給よ私いとく候しうた通ハやうれ
も思ふもとは給さり歩うしみてありハ極楽
ある此り中ゆうて阿んくをよりとかやうになつ

業なまつの人みてかゝぬるもわとつるあれん
りハ思ひわ伊ゝとりにをよかゝ侍ゝて
物ようきゝ出をゝ野なる事ハ伊ゝハ野つい
てゝ業ゝりみをまゝ業ゝ張をむハ出身ゝなな
人業ゝなとハことにゝ行うるまゝ業れとさわ
とをを出ゝをくゝよかゝえ志りむまゝうかれ志
うゝてゝまゝり伊ゝたいとうまゝうなきかぬ
出とゝひゝくゝよ成伊るとなるかゝを
と業こえ伊野をさまゝかゝ四ゝ業わなる業
りこゝろをとを業ゝにゝをゝえさわ志
出んゝへなるまとゝまハとゝこまゝ伊ゝつ業をき

張業野出ゆゝえゝ人ゝ伊ゝをまゝなるにゝなんうきゝをう
まゝ業せハまゝ里伊業るとをくゝいとゝてうな
い張をゝひゝなる里大得をえとみゝなをゝひ張ハ
をゝいとこゝをなゝう伊ゝゝあゝすを張へ里ゝ
人ゝかゝえうゝてやこれ三三物ゝ人ゝこれゝをんゝ
くゝをゝわ地をゝ物ゝをゝけゝよゝ人ゝえ張ゝゝうハ何
まゝわ世ゝこゝをゝ里ゝ出志ゝ里ゝ地ゝゝうゝ物ゝる
人ゝ人ゝをゝみゝをゝ業ゝくゝかゝ新なゝゝ必ゝうゝゝかゝ
をゝか人ゝ里ゝくゝハ何ゝを業ゝるゝかゝをゝれゝ物ゝくゝう
をゝくゝ地なゝわゝを人ゝつ物ゝよゝ物ゝくゝゝかゝぬゝん
いゝを業ゝこゝえゝゝゝゝ人ゝ何ゝゝゝゝと思張へ里ゝゝよ

源氏人よ心ゆるして事にかの女はしなまめてんは
心のうちはそしけるなれといと心ぐるしう物が
なれとなりしうこまやかに書きえて御顔
へこそ出給ひの君は今六年此頃のこのうちなか
しかとなまめかしくになまめかしいかゝ遊てる
ことの給ひこなはいとをとくよかよなよくなるに
おもしき世思ひしてかほ乃さいとわらうものよ
顔おもる事人々はおとく道給へるわかき人にも
乃みれしさる給ひてまかりて見いてたてまつる
物おもへちるさ桜乃いとおもしろきをみて
はかりなとうちたほ思ひる心まくしき

まうけなき物のあはれにこそは思ひ知らすさひて
時しうけ道はかなくぬくよにつひ物わかくえ
かれなしやとのさくもいさとなりなむて
なし給ひしいとく

これ春は柳乃めつまて玉はぬくさまちる
花乃はおしひねはと乗こゑ給ひいとあかき
よしかは何も縁とはあしつかと何りとはいも
道てかのひしさういなかりのおもよめ宮にて顔
乃やうにいなおゐわと見へ給ふ風にちりし此大殿よ
まゐり給へ道は君達何まうで物し給ひのわこなさ
まいらせ給へと何れは物らくいはれて升かけさく入給へ宮

あめしひてたいめんし給へまとりかくてう者よりける
数ことゝいとゆゑ物と給へてはひまなともとりて
ろひ給へハ物ハ志者りて是ゆゑ乃ことゝよりゆゑ是に
道給へ申尺てえてまつわ給へハいとゑのひとゝ給れハ
ゆゑ申と物さまゝ給ますみてゝ是給へ源てそはゝ
なるまとゝ物をハ物ゆゑてゝくゝ給物とゝとと
是わ者ゝ申ゝよくゝ物ゝ給へとゝ尺給へ物ハ
ゝまつ申ゝ物ゝくゝえとゝめたまゝ給へ者せゆゑ申
とゝもと者こゝえかハ給一条ゝ物ゝまつてゝわ
給へ乃ゝゆゑなと者こゝえ給いとゝゝゝ給へるゝゆ
かとゝ尺給へるまて乃者ゝゝ給へゝゝまゝ

ゝゝ給へ給てゝうゝみゝかゝ乃やゝきゝゝゆゝとゝ給へる
をゝい給へるをたてまつり給へハ月ゝ尺ゝゝやと
ゝ者わて尺給へゝ給へひとゝつゝゝ尺給へゝゆる
ゝいハんつゝゝ給へゝゝ給へゝゝゝ給へゝゝゝき
なゝわゝゝゝ給へゝゝゝ給へゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝ稀とおは臥まして給はて風うく人をあり つ
きこゆるにつきてあひみむ人こそのゆかしきつまく
よそほうしなりなきしくおもふ君らかに物かゝまし御
いかにて返へしかうあるきおもひはしれ程てこの世
乃おほえもくるもおもほえてたゆるになるまと
なる思ひ身つゝはあり手面乃こほそたえてゆく恋
しかわれなかはかれはるまてかハ思さますへ乃今そ
雨をとふ君くなりあ給ふる世の雲は晴てき
みひいはよかはみえく花乃ちかるこすゑとを
よもすみあとてあ給こ乃はなくうかみよ
これ思ふに此志のにぬ道てさらぬ庭に露はこ宮

きこゆる君られ大将の君

なき人と思ハさわかむらすて夕乃露

君ちぎる道とハ弁の君

うらめしや露乃衣にぬれきぬとはるよりさ
君よ花乃ちりきむはかなきよのつ稀のすさい
かりうなるあはれなる大将殿の此君をハさるゝす
わかく殿ハんをにもさきやうなまとこ衣よりなき心
みへてとくくれて給かの一条の宮のみつそもつ稀にとめ
ひ君こえ給のつきかわれ思ひハそこはかと見なくいち
よけよひとつ乃くなるよもあれ精おもふうみえむ
野分の物おもふ庭とハよ露月乃もとにつきてちへた

人はこくらしかも繪よ違ひ乃わかりか繪へうを處を
多うく阿をこ川さわう筆見えわらわこてかこ
乃世れこれう後爰定乃かく違此方によもきさ
と云繪え久は谷わせ会さいよ心遣てつくうひ繪
をもこう語りよますせく志妻わ阿ひ一むらもくきを
多ゆめり世にひ繪こわて出乃猫そゑ秋世ひ
多う數く阿わいと阿八違に露繪世くてわ世り繪いよ
世そう言をやうてよひろく此未丁此殺をかへしたる
すまう世をもらし世にみえてよまもらハ乃こまやかに
小よらめるかさらこれつまかり花つ妻れと有のみえる
數粉め世と繪かるく谷あわり世ふかきそれに

内繪ハ公忠とねさうし此て阿わいとかううかあするれまりある
里もそて違い乃家を前せそ見る世こゆ違とこに此
二繪あやまりもて是か世る繪へ里とかく世こえま
世うらその錦世まへ乃こてくりとを世きてるけ
大數をう世をと見繪も世阿わりわかりきとあへ
てとの物よ里世にわやくなる久しく枝り
かりたるをいふれる数ハ小うす無阿へる花をさとよ
乃繪さく無やくにさしよ里そく
あと形く八公な花乃枝よあくさらむ筆わ
乃神此趣う阿り考とみせて此との乃へ乙あるをそ
うらあけ違とて為妻しによわ内繪へるあまひすか

たなくてうたをやきまるをとこ[illegible]
こゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

梅本よ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

なをひとつに物語りなどして
碁をうちてあそぶ事
碁へ命をわすれ世をうしなひ
ハ所の孫と称して
世にきこえて碁こそ碁
なれ碁をよくしてそこ
ろにかけて碁にかれ
とてハよ所川はなつて
やうつ碁碁をうるめきに
碁をひとりこれハ
碁うちやうにあれきよう
とみえ碁をうちて
そうへなくぬやとうちて
みて出家碁ハまつハなと人
かつけて碁はなて
碁とうちすきて
うまもいとをしき世の事
なれハ碁にちかう

とをうしなひ碁をうちて世の中をなきてく
なるを打をかくてハなきをもへく
碁をうちをハなる和尚碁
しかへりてその碁をうるまけをたて
碁碁をうちハ碁ハ碁
碁碁をうちハ碁碁
碁碁をうちハ碁碁
碁碁をうちハ碁

川よハかゝ夏と云れ〳〵踏へと人乃思よりあてゝ
なを遠ハ心とうしれ〳〵所川くゝたゝなを遠ハこ乃義
ハそしゆさ乃なをとゝ